

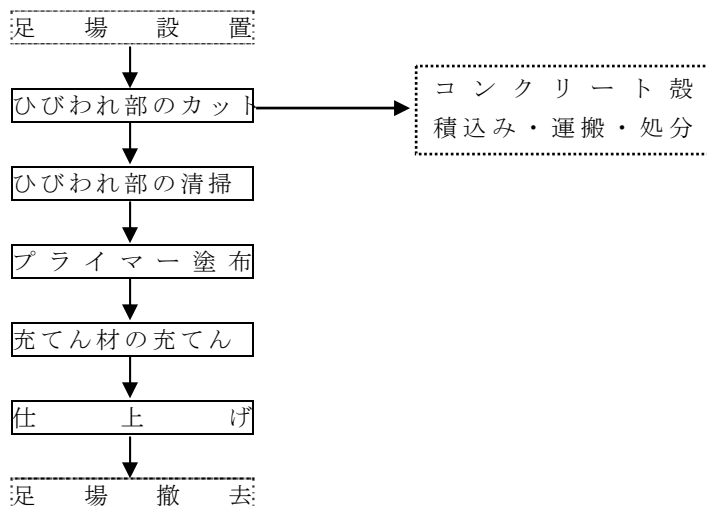
⑫-5 橋梁補修工（ひび割れ補修工（充てん工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁のひび割れ補修における1橋当たりの充てん作業（ひび割れ延長300m以下）に適用する。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 編成人員

ひび割れ補修工（充てん工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 編成人員 (人/橋)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1橋当り施工日数 [ひび割れ補修工（充てん工法）]

ひび割れ補修工（充てん工法）の1橋当り施工日数（D）は次による。

$$D = 0.035 \times L + 0.63$$

D：1橋当り施工日数（日/橋）

L：1橋当りの延べ施工量（m/橋）

- (注) 1. 施工日数（D）は少数第3位を四捨五入し、少数第2位止めとする。  
 2. 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。  
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。  
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。  
 5. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

#### 4-2 諸雑費

諸雑費は、各作業に必要な器具（サンダー等）、替え刃、プライマー材料費及び電力に関する費用等であり、労務費の合計額に次表の率を上限として計上する。

表4.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	25
------	----

#### 5. 単価表

##### (1) ひび割れ補修工（充てん工法）1橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×D	
特殊作業員		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
充てん材材料費		kg		必要量計上（注）
諸雑費		式	1	表4.1
計				

（注）1. D：1橋当り施工日数（日／橋）

2. 必要量とは、材料ロス分を含む。

平成26年4月1日以降起工適用

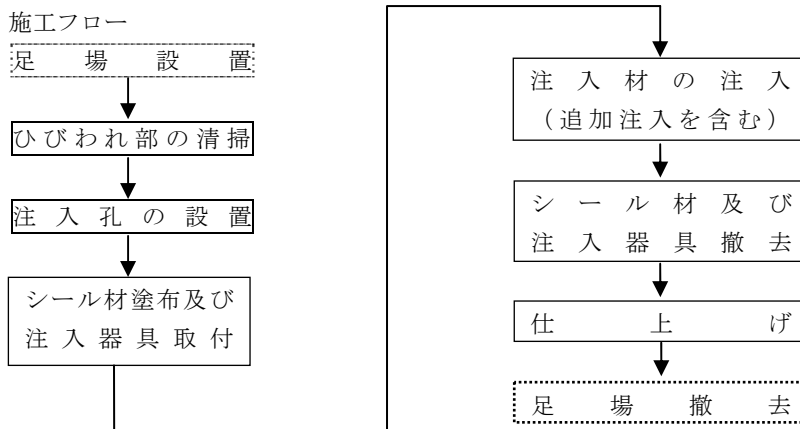
⑫-6 橋梁補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁のひび割れ補修における1橋当たりの低圧注入作業（ひび割れ延長300m以下、注入圧力0.4MPa以下）を行う場合に適用する。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。  
 2. 注入器具の種類によって作業の順序が前後しても適用することができる。

図2-1 施工フロー

3. 編成人員

ひび割れ補修工（低圧注入工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 編成人員 (人/橋)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1橋当り施工日数 [ひび割れ補修工（低圧注入工法）]

ひび割れ補修工（低圧注入工法）の1橋当り施工日数（D）は次による。

$$D = 0.060 \times L + 0.71$$

D：1橋当り施工日数（日/橋）

L：1橋当りの延べ施工量（m/橋）

- (注) 1. 施工日数（D）は少数第3位を四捨五入し、少数第2位止めとする。  
 2. 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。  
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。  
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。  
 5. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

平成26年4月1日以降起工適用

4-2 諸雑費

諸雑費は、清掃、注入器具設置・撤去、シーラ材塗布及び撤去、注入材の注入及び仕上げに必要な器具等及び電力に関する費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表4.1 諸雑费率 (%)

諸雑费率	11
------	----

5. 単価表

(1) ひび割れ補修工（低圧注入工法）1橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×D	
特殊作業員		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
注入材		kg		必要量計上（注）
シーラ材		〃		必要量計上（注）
低圧注入器具		個		必要量計上（注）
諸雑費		式	1	表4.1
計				

(注) 1. D：1橋当り施工日数（日／橋）

2. 必要量とは、材料ロス分を含む。

平成26年4月1日以降起工適用

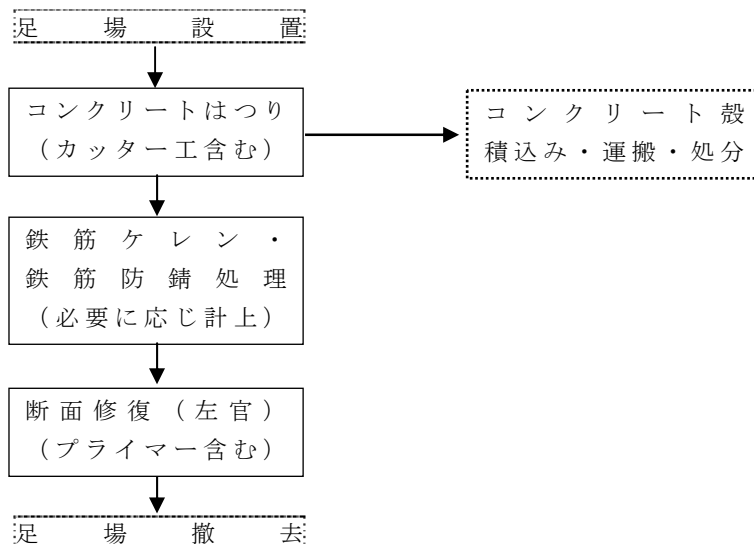
⑫-7 橋梁補修工（断面修復工（左官工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁の断面修復における1橋当たりの左官作業（体積1.5m<sup>3</sup>以下）に適用する。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 編成人員

断面修復工（左官工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 編成人員 (人/橋)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1橋当り施工日数（鉄筋ケレン・防錆処理を含む）

コンクリートはつり（カッター工含む）、左官（プライマー・仕上げ含む）、鉄筋ケレン・防錆処理を含む1橋当りの施工日数（D）は次による。

$$D = 18.92 \times V + 1.48$$

D：1橋当り施工日数（日/橋）

V：1橋当りの延べ施工量（m<sup>3</sup>/橋）

平成26年4月1日以降起工適用

4-2 1橋当り施工日数（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない）

鉄筋ケレン・防錆処理を含まない，コンクリートはつり（カッター工含む），左官（プライマー・仕上げ含む）の1橋当りの施工日数（D）は次による。

$$D = 16.16 \times V + 1.28$$

D：1橋当り施工日数（日／橋）

V：1橋当りの延べ施工量（m<sup>3</sup>／橋）

- （注）1. 施工日数（D）は少数第2位を四捨五入し，少数第1位止めとする。  
 2. 歩掛は，全ての施工方向に適用できる。  
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は，別途考慮する。  
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。  
 5. 足場等については，現場条件を考慮の上，別途計上する。

4-3 材料の使用量

断面修復材の使用量は，次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計数量} \times (1 + K) \quad (\text{m}^3) \quad \dots \dots \dots \text{式4.1}$$

K：ロス率

表4.1 ロス率 (K)

ロス率	+0.18
-----	-------

4-4 諸雑費

諸雑費は，カッター，はつり及び鉄筋ケレン作業に必要な器具（電動ピック、サンダー），替え刃，防錆処理・プライマー塗布作業に必要な器具・材料，左官作業に必要な器具，材料攪拌に関わる器具等及び電力に関する費用等であり，労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表4.2 諸雑费率 (%)

鉄筋ケレン・防錆処理を含む	18
鉄筋ケレン・防錆処理を含まない	15

5. 単価表

(1) 断面修復工（左官工法）1橋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×D	
特殊作業員		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
断面修復材		m <sup>3</sup>		4-3（式4.1）
諸雑費		式	1	表4.2
計				

（注）D：1橋当り施工日数（日／橋）

平成26年4月1日以降起工適用

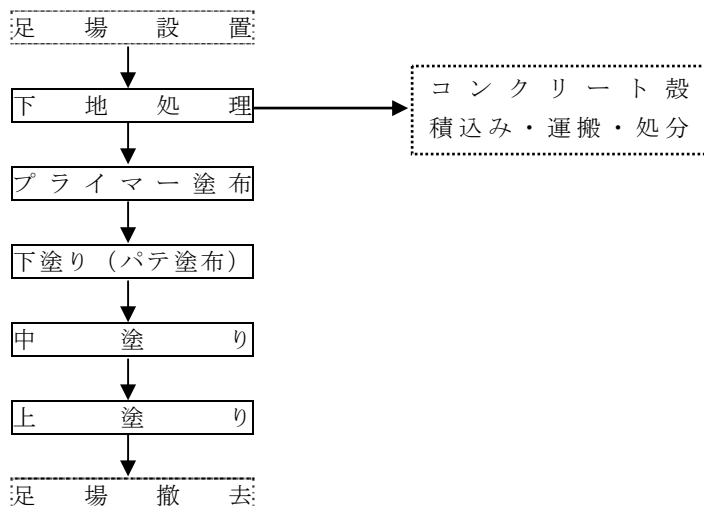
⑫-8 橋梁補修工（表面被覆工（塗装工法））

1. 適用範囲

本資料は、橋梁補修のコンクリート面の表面被覆工（塗装工法）における1橋当たりの塗装作業（仕上げ面積2,000m<sup>2</sup>以下）に適用する。ただし、新設時の塗装には適用しない。

2. 施工概要

(1) 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 編成人員

表面被覆工（塗装工法）の編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 編成人員 (人/橋)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

4. 施工歩掛

4-1 1橋当り施工日数（下地処理）

下地処理1橋当りの施工日数（D）は次による。

$$D = 0.0047 \times A + 0.37 \quad \dots \text{式4.1}$$

D：1橋当り施工日数（日/橋）

A：1橋当りの延べ施工量（m<sup>2</sup>/橋）

4-2 1橋当り施工日数（プライマー塗布）

プライマー塗布1橋当りの施工日数（D）は次による。

$$D = 0.0024 \times A + 0.25 \quad \dots \text{式4.2}$$

D：1橋当り施工日数（日/橋）

A：1橋当りの延べ施工量（m<sup>2</sup>/橋）

4-3 1橋当り施工日数 [下塗り (パテ塗布)]

下塗り (パテ) 塗布 1橋当りの施工日数 (D) は次による。

$$D = 0.0052 \times A + 0.53 \quad \dots \dots \text{式 4. 3}$$

D : 1橋当り施工日数 (日/橋)

A : 1橋当りの延べ施工量 (m<sup>2</sup>/橋)

4-4 1橋当り施工日数 (中塗り材塗布・上塗り材塗布)

中塗り材塗布・上塗り材塗布 1層・1橋当りの施工日数 (D) は次による。

$$D = 0.0096 \times A + 0.52 \quad \dots \dots \text{式 4. 4}$$

D : 1橋当り施工日数 (日/橋)

A : 1橋当りの延べ施工量 (m<sup>2</sup>/橋)

- (注) 1. 施工日数 (D) は少数第3位を四捨五入し、少数第2位止めとする。  
 2. 歩掛は、全ての施工方向に適用できる。  
 3. 現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。  
 4. コンクリート殻の積込み・運搬及び処分は別途計上する。  
 5. 足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。  
 6. 中塗り材・上塗り材を複数回塗布する場合は、回数分を計上する。

4-5 諸雑費

諸雑費は、各作業に必要な器具 (サンダー、刷毛、コテ等)、替え刃、材料攪拌に関わる器具等及び電力に関する費用等であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた額を上限として計上する。

表 4. 1 諸 雑 費 率 ( % )

下 地 処 理	22
プ ラ イ マ ー 塗 布	6
下 塗 り ( パ テ ) 塗 布	6
中 ・ 上 塗 り 材 塗 布	6

平成 26 年 4 月 1 日以降起工適用



5. 単 価 表

(1) 表面被覆工（塗装工法） 下地処理 1橋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	式4. 1
特 殊 作 業 員		〃	2×D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃
諸 雑 費		式	1	表4. 1
計				

(注) D：1橋当り施工日数（日／橋）

(2) 表面被覆工（塗装工法） プライマー塗布 1橋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	式4. 2
特 殊 作 業 員		〃	2×D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃
材 料 費	プライマー	kg		必要量計上（注）
諸 雑 費		式	1	表4. 1
計				

(注) 1. D：1橋当り施工日数（日／橋）

2. 必要量とは、ロス率を含む。

(3) 表面被覆工（塗装工法） 下塗り（パテ塗布） 1橋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	式4. 3
特 殊 作 業 員		〃	2×D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃
材 料 費	パテ材	kg		必要量計上（注）
諸 雑 費		式	1	表4. 1
計				

(注) 1. D：1橋当り施工日数（日／橋）

2. 必要量とは、ロス率を含む。

(4) 表面被覆工（塗装工法） 中塗り材塗布 1層・1橋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	式4. 4
特 殊 作 業 員		〃	2×D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃
材 料 費	中塗り材	kg		必要量計上（注）
諸 雑 費		式	1	表4. 1
計				

(注) 1. D：1橋当り施工日数（日／橋）

2. 必要量とは、ロス率を含む。

平成 26 年 4 月 1 日以降起工適用

(5) 表面被覆工（塗装工法） 上塗り材塗布 1層・1橋当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	式4.4
特 殊 作 業 員		〃	2×D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃
材 料 費	上塗り材	kg		必要量計上（注）
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

（注）1. D：1橋当り施工日数（日／橋）

2. 必要量とは、ロス率を含む。

平成 26 年 4 月 1 日以降起工適用